



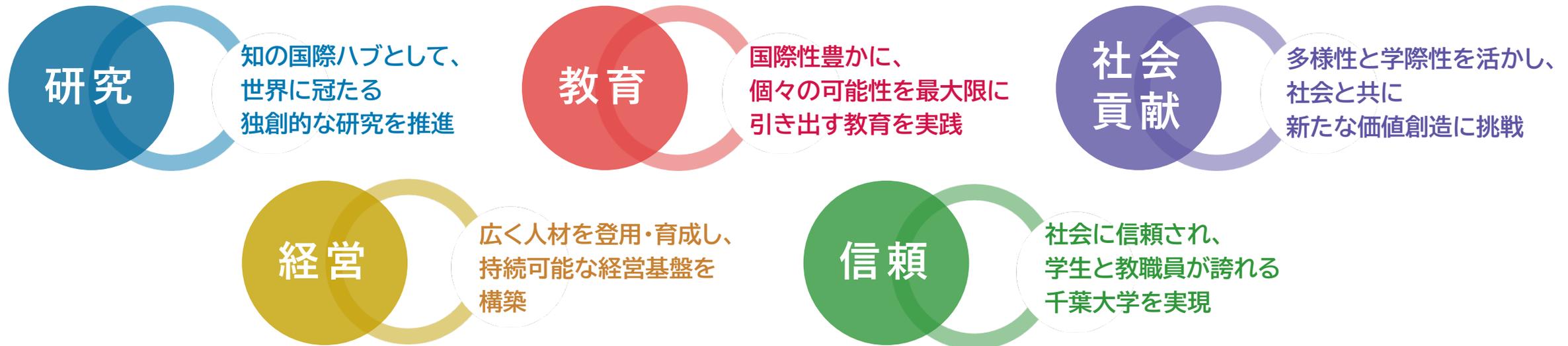
# 千葉大学における産官学連携の取組について

令和7年8月4日 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業シンポジウム

千葉大学長 横手 幸太郎



# 生命、環境、そして社会へ。 知の共鳴で未来を拓く千葉大学



## 【ビジョン実現に向けた行動指針】

### 1 「より良く生きる」に貢献しよう

- 「生命/いのち」「環境」「社会」をキーワードに、自身の専門性を活かして、変化を恐れず、新たな領域の開拓にチャレンジする。
- 地域社会やグローバル社会に活動の成果を還元し、個性や才能を発揮して活躍する人材を輩出することで、人々の「より良く生きる」に貢献する。

### 2 イノベーションを楽しもう

- 企業・団体、地域・世界の人々との共創を先導し、互いの知を高め合いながら、進取の精神でイノベーションを創出する。
- 学内においても、異なる視点や強みを尊重しつつ、専門性や職種の枠を越えて、対話と協働を促進していく。

### 3 大学の基盤を強化しよう

- 多様なステークホルダーの声を活かし、経営体制を強化する。
- 学生・教職員が生き生きと活躍できる環境を整備する。
- 本学のリソースを最大限活用し、世界に存在意義を示す。
- 社会に開かれた大学として、千葉大学ブランドの向上に努める。

# ■ 千葉大学J-PEAKSのコンセプト

## 10年後の大学ビジョン

“強みや特色ある研究領域において、学び、研究し、イノベーションを創出する場として、国内外の学生や研究者に選ばれる大学”となる。

### 【本学の強みや特色ある研究領域】



(i)免疫学・  
ワクチン学研究



(ii)予防医学研究



(iii)地球観測ビッグ  
データ統合解析研究



(iv)ニュートリノが  
拓くマルチメッセン  
ジャー天文学研究

## 研究力の向上戦略 ～概要～

- ◆世界的卓越性を追求し、(i)領域を重点的に強化するとともに、「千葉大学 Biohealth open Innovation Hub」を活用し、(i)(ii)のバイオ×健康領域のイノベーション創出を加速。
- ◆(i)のグッドプラクティス等を横展開し、6年目以降に(iii)、(iv)領域を強化。さらに、学内に横展開し、全学の中長期的な発展を目指す。

# ■ 大学ビジョンの実現に向けた千葉大学J-PEAKSの主な取組内容

## データサイエンスコア（DSC）の設置

- 柔軟な人事制度（企業とのクロアポ、民間レベルの給与、ジョブ型雇用、学位取得サポート等）導入
- 本学の最先端研究に参画
- 情報・DS学府との連携、異分野・オープン学内外交流

学内特区



## ヒト免疫疾患治療研究・開発センター(cCHiD)の設置

### NIH CHIをベンチマーク 千葉大モデルの構築

- 臨床研究中核病院のメリット、AI基盤等を活用
- 最先端技術リソース提供、管理運営外部委託

学内特区



## 次世代in vivo研究探索センター(cNIVR)の設置

### NIH NCATSをベンチマーク

- 動物実験の代替法開発、in vitro研究、最先端基盤構築を並行して推進
- 治療学AI研究センターの強み、理研・理科大との連携を活用



## 千葉大学を核としたイノベーション・エコシステムの構築

- 本学100%出資の株式会社設立
- 地域ベンチャー投資ファンドへのLP出資
- Biohealth open Innovation Hubを活用したオープンイノベーションの加速
- アントレプレナーシップ教育、スタートアップ創出支援



## 国内外の大学・研究機関との連携の深化・拡大

- UCSDとの連携深化、ダブル・ジョイントディグリーなど若手研究者の育成強化
- トロント大、コーネル大等との組織間連携構築
- 東大、筑波大、理科大、理研、QST等との連携を活用

## 研究者及び研究支援人材の育成やキャリアパスの構築等

- 【研究者】若手研究者の管理・運営実務負担軽減など、研究に専念できる研究環境整備
- 【研究支援人材】能力・実績等を踏まえた処遇、キャリアアップ制度等

■ 大学ビジョンの実現に向けた千葉大学J-PEAKSの主な取組内容

～千葉大学を核としたイノベーション・エコシステムの構築～

データサイエンスコア（DSC）の設置

- 柔軟な人事制度（企業とのクロアポ、民間レベルの給与、ジョブ型雇用、学位取得サポート等）導入
- 本学の最先端研究に参画
- 情報・DS学府との連携、異分野・オープン学内外交流

学内特区



ヒト免疫疾患治療研究・  
開発センター(cCHiD)の設置

NIH CHIをベンチマーク 千葉大モデルの構築

- 臨床研究中核病院のメリット、AI基盤等を活用
- 最先端技術リソース提供、管理運営外部委託

学内特区



次世代in vivo研究探索センター  
(cNIVR)の設置

NIH NCATSをベンチマーク

- 動物実験の代替法開発、in vitro研究、最先端基盤構築を並行して推進
- 治療学AI研究センターの強み、理研・理科大との連携を活用



千葉大学を核としたイノベーション・  
エコシステムの構築

- 本学100%出資の株式会社設立
- 地域ベンチャー投資ファンドへのLP出資
- Biohealth open Innovation Hubを活用したオープンイノベーションの加速
- アントレプレナーシップ教育、スタートアップ創出支援



国内外の大学・研究機関との連携の  
深化・拡大

- UCSDとの連携深化、ダブル・ジョイントディグリーなど若手研究者の育成強化
- トロント大、コーネル大等との組織間連携構築
- 東大、筑波大、理科大、理研、QST等との連携を活用

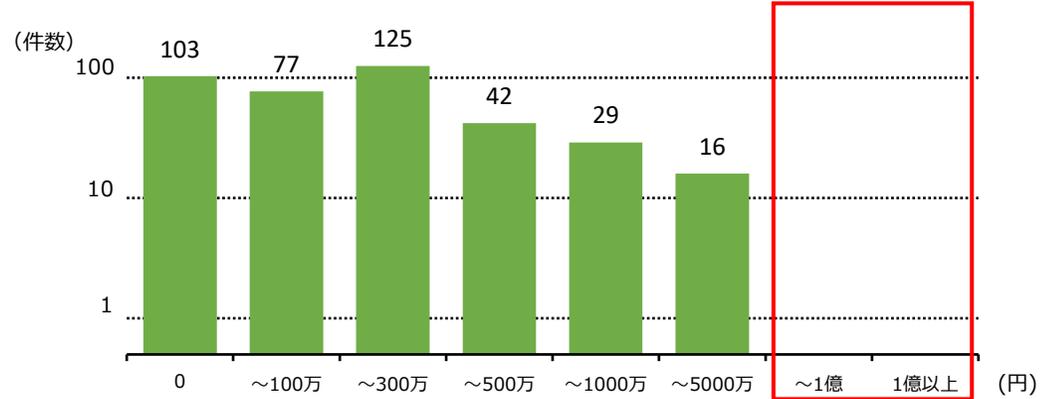
研究者及び研究支援人材の育成や  
キャリアパスの構築等

- 【研究者】若手研究者の管理・運営実務負担軽減など、研究に専念できる研究環境整備
- 【研究支援人材】能力・実績等を踏まえた処遇、キャリアアップ制度等

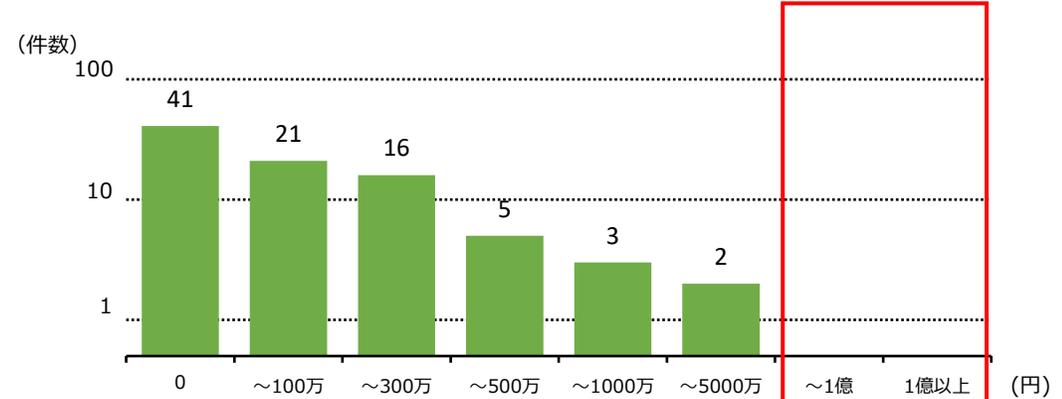
# ■ 千葉大学における産学連携の現状

✓ 受託・共同研究ともに全体件数は伸びているが、大型案件の組成に課題

## ◆ 民間との共同研究件数

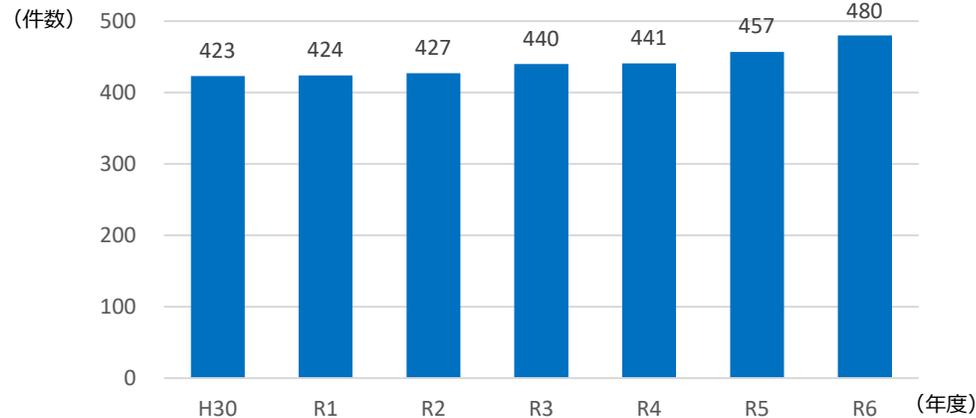


## ◆ 民間との受託研究件数

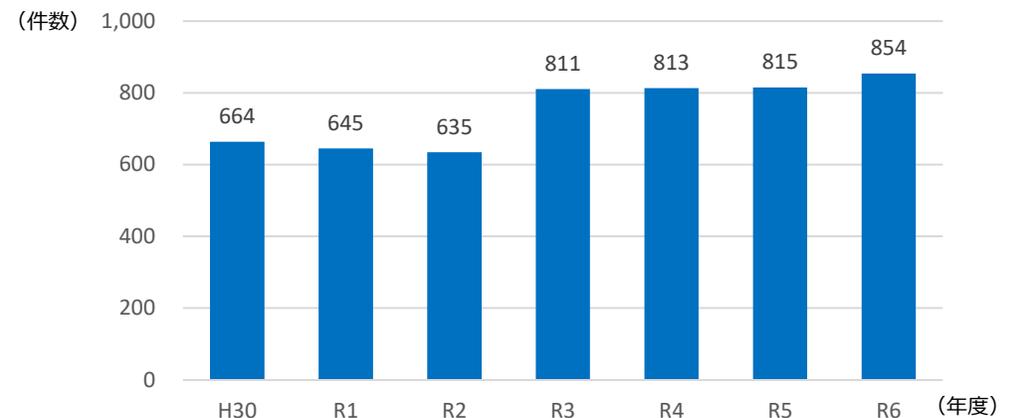


【引用】大学ファクトブック2025: 日本経済団体連合会、経済産業省、文部科学省。

## (大学全体の共同研究件数)



## (大学全体の受託研究件数)



## ■ 大学の持続的発展とイノベーション創出を実現するために

- 大学が持続的に発展していくためのより強固な財務基盤の構築には外部資金獲得が必須
- アカデミアの知を活用し、社会的課題を解決するために研究成果と社会のニーズを繋ぐ橋渡しが必須
- 目まぐるしく移り変わる世の中のスピードに後れを取らず、イノベーションを創出するには、迅速かつ柔軟な対応力が必須

本学のイノベーションを加速する外部エンジンとして  
「株式会社 千葉大学コネクト」を設置（令和7年4月1日）



ミッションは“大学と社会をつなぐ”



連携拡大の迅速化

既存の枠にとらわれず、  
機動的に実行

共同研究の大型化

企業等の課題やニーズを把握  
適切に構造化し、対応策を提案

未着手だった課題へのアプローチ

未知の領域に果敢にチャレンジ  
新たな価値創造に挑戦

# 株式会社千葉大学コネクトの取組

1

企画・営業部門



企業の課題やニーズをヒアリングし、課題解決の企画を立案・提案



教員が直接窓口になる  
産官学連携



千葉大学コネクト経由での  
産官学連携

- ・ 教員の負担を軽減し、迅速な対応を実現
- ・ 課題解決のトータルコーディネートが可能
  - ✓ 窓口一本化によって多数の教員へアクセス
  - ✓ 案件の全体把握
  - ✓ 連携テーマへと横発展

2

施設運営部門



大学所有施設を民間事業者（共同研究相手、関連スタートアップ等）へ貸出



BIH B棟へ入居企業を斡旋

輝翠株式会社  輝翠  
農業用AIロボットの研究開発  
(農産物の搬送支援、病虫害・樹勢調査のための見回りロボットの活用)



3

ソリューション提供部門



社会人向けセミナーやデザインに関するコンサルティング



大学の持つ知的アセットの価値化

ロゴマークの製作、パンフレットの監修、インフォグラフィックの提供など

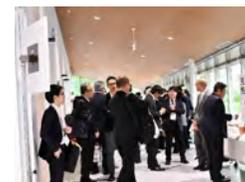


# ■ オープンイノベーション拠点 「千葉大学 Biohealth open Innovation Hub (BIH)」の活用 (令和7年3月31日竣工)

建設地：千葉大学柏の葉キャンパス  
(つくばエクスプレス(TX)柏の葉キャンパス駅より徒歩5分)

規模：地上1階1棟、地上2階2棟 計3,760.08㎡

BIH開所式&  
千葉大学J-PEAKSシンポジウムの様子



## ■ 千葉大学アントレプレナーシップセンターの設置（令和7年4月）

- ◆ 学内組織に分散しているアントレプレナーシップ教育・機能を一体的にマネジメントし、体系化した教育プログラムを全学的に展開

### 【アントレプレナーシップ教育部門】

- 総合知に基づくアントレプレナーシップ教育プログラムの展開

### 【リエゾン部門】

- 産官学連携（国内外）による実践的アクセラレーションプログラム/インターンシッププログラムの開発と実践

### 【アントレプレナーシップ実践部門】

- 実践的プログラム開発・提供
- 本格的スタートアップ支援の実施



【グローバル・アントレプレナーシッププログラム集合写真@EXPO】

317人

アントレ講義の受講者数

※スタートアップ・ラボ開設後（2022年度以降）の累計

451人

スタートアップ育成プログラムの参加者数

※スタートアップ・ラボ開設後（2022年度以降）の累計

グローバルな社会課題を的確に設定し、課題からバックキャストして自ら行動を起こせるグローバル・アントレプレナー人材の育成を目指す

# ■アントレプレナーシップ教育・スタートアップ創出支援

スタートアップ創出数増を目指し支援活動を拡充（一部活動を掲載）



千葉大創業センター(CSC) × JMO  
スタートアップカフェ#2  
ベンチャーキャピタリストと起業について気楽に語ろう！

スタートアップカフェは、  
ゲストの起業家やVCと  
ドリンク片手に気楽に語ろう！  
というコンセプトのトークセッションです。

司会者  
片桐 大輔 氏  
\*専任MBA 持資格者

ゲスト  
木村 寛介 氏  
\*ファイナンシャル・ジェネラル・パートナー

CHIBA STARTUP COMMUNITY  
2022.6.30 Thu 18:30~ @IMO 1F イベントスペース

スタートアップカフェ



ちばぎん・はまぎん学生ビジコン 2024

「考える人」から  
「行動する人」へ、  
You Can Change!

大賞 30万円  
準大賞 10万円  
優秀賞 10万円  
奨励賞 10万円  
奨励賞 10万円

千葉・横浜パートナーシップ  
CHIBA YOKOHAMA PARTNERSHIP

ちばぎん・はまぎん学生ビジコン

社会  
実装

4つの  
アントレプレナーシップ  
講義

スタートアップ概論 A / B  
「なぜ、今、大学発スタートアップが必要か」といった動機付けから始まり、会社という仕組みを知った上で、無理なく全体像を理解できる構成になっています。

スタートアップトレーニングⅠ  
スタートアップ立ち上げに係る基礎知識を習得し、事業計画や資金計画の作成等を通じて、「起業」の模擬体験します。日英併用。

スタートアップトレーニングⅡ  
チーム単位で事業計画を検討、作成、発表することを行います。日英併用。

<https://startup-lab.chiba-u.jp/entrepreneurship-education/>

なのはなコンペ  
(学内ギャップファンドプログラム)

千葉大学GAPファンドプログラム  
なのはなコンペ  
2025

可能性を、  
実現する

募集期間  
8.5(火)  
—9.5(金)  
12:00

最大100万円の  
支援金と専門家の  
サポートプログラム

[https://startup-lab.chiba-u.jp/tag/21th\\_nanohana\\_2023/](https://startup-lab.chiba-u.jp/tag/21th_nanohana_2023/)

千葉市C-CAP  
(自治体アクセラレーションプログラム)



<https://www.city.chiba.jp/keizainosei/keizai/san-gyo/c-cap.html>

学生  
スタートアップ  
支援事業  
参加者募集

全国各地を舞台に、他大学の学生と学び合う。  
あなたの挑戦を、千葉大学が全力で後押しします。

金沢へ！  
ビジネスコンペ参加部門  
アイデアがある人はこちら。  
他の地域のビジネスコンペへの参加活動助成金を提供します。

北海道・沖縄へ！  
アントレプレナーシップ醸成部門  
アイデアがないけど体験してみたい人はこちら。  
他大学・他エリアの起業を目指す学生との交流の場を提供します。

2025.  
6.30(月)  
12:15—12:50  
at 千葉大学西千葉キャンパス  
IMO棟11Fイベントルーム

募集期間  
7.1(木)—7.25(金)

Check website →  
<https://entrepreneurship.support.chiba-u.jp/eng/2025>

きっかけは、  
旅の中にある

CHIBA UNIVERSITY

令和7年度千葉大学  
学生スタートアップ支援事業の  
ポスター

# ■ 地域ベンチャー投資ファンドへのLP出資とスタートアップ支援

地域との連携を通じて新たな価値創出を目指すスタートアップにも投資を行い社会への貢献を目指す

- ◆ 大学の研究成果の社会実装を促進
- ◆ 地域経済を活性化
- ◆ 千葉大学コネクト及び千葉大学アントレプレナーシップセンターとの相乗効果を期待

## 令和7年7月1日に 「ちばグロースアカデミアファンド」を千葉銀行と設立

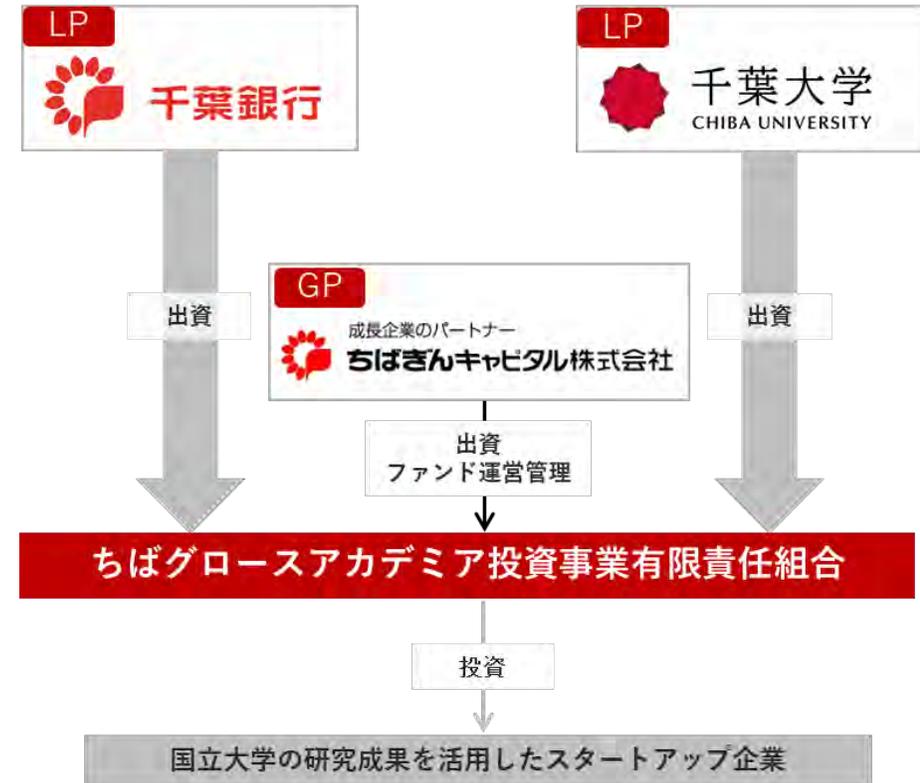
国立大学が銀行グループの設立したファンドに出資する事例は国内初

順位	大学名	企業数
1	東京大学	468
2	京都大学	422
3	慶應義塾大学	377
4	大阪大学	298
5	筑波大学	264
6	東京理科大学	226
7	東北大学	222
8	東京科学大学	187
9	早稲田大学	166
10	立命館大学	160
11	名古屋大学	153
12	北海道大学	147
13	九州大学	119
14	近畿大学	118
15	デジタルハリウッド大学	117
16	神戸大学	113
17	情報経営イノベーション専門職大学	85
18	岐阜大学	83
19	千葉大学	70
20	広島大学	67

千葉大学のスタートアップ数は  
令和6年度実績で70社  
(全国19位)

- ◆ 令和4年度のスタートアップ・ラボ設置以降、多様な支援を開始
- ◆ 令和4年度以降は常に20位以内にランクイン

出典：経済産業省 令和6年度 産業技術調査  
(大学発ベンチャー実態等調査)報告書



# 千葉大学 学術研究・イノベーション推進機構(IMO)の取組

全学的な研究支援・研究マネジメントの中核組織として「学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)」が活動



◆ 令和 7 年 4 月 より 7 種類 の 担当 制 を 新た に 導入

## 社会実装に向けた一気通貫の支援体制



◆ 戦略企画担当URAを中心に、各担当URAが連携しながら、**組織的・戦略的な産官学連携**を実施し、第4期中期目標及びJ-PEAKS等の**KPIの目標値実現**を図る

## ■ 千葉大学が目指す未来

千葉大学を核としたイノベーション・エコシステムを構築  
企業・行政、地域・世界との知の共鳴を起こし、イノベーションを創出

「つねに、より高きものをめざして」の理念に基づき、  
“**地域中核・特色ある研究大学**”としての持続的な成長を実現